

平成 30 年 7 月豪雨災害現場の視察（愛媛県）について

平成 30 年 9 月 12 日

9 月 6 日、自民党農林部会、農林水産災害対策委員会合同（団長：平野達男農林水産災害対策委員長）で、愛媛県のみかん樹園地の被害状況を視察してまいりました。

参加議員はつぎのとおりです。

野村哲朗（参）農林部会長

平野達男（参）農林水産災害対策委員長（団長）

馬場成志（参）農林水産災害対策委員会事務局長

進藤今日子 参議院議員

（地元参加議員）

山本順三 参議院議員

井原巧 参議院議員

愛媛県は、日本一のみかんの生産県で、みかんを中心とした果樹が県の農業産出額の半分以上をしめています。

平地が少なく、海沿いの日当たりいい傾斜地を利用してみかんを生産してきました。傾斜が 20 度以上というみかん園も少なくなく、軌道レールを敷設して収穫したみかん、物資などの輸送をしています。また、防除などのために、パイプラインがはりめぐらされています。

愛媛では、北西部を中心に大量の雨がふり、みかん園では、谷筋にながれた雨水によって浸食、土石流が多発しました。軌道レール、パイプライン、園内農道の寸断、みかん樹木の流失など、甚大な被害がでました。

被災現場を視察するとともに、農家、JA、自治体の方々との意見交換会を 3 か所でおこないました。

意見交換会では、

- ・今年収穫にむけての支援
- ・軌道レール、パイプラインの早期復旧
- ・流失、土砂に埋没したみかん園の再生にむけた支援あり方

などについて、農家の方々をはじめとして現場の声を聞くとともに、意見交換をおこないました。

被害の大きさを前に、一部には離農をかんがえている農家がおられるということもお聞きしましたが、なんとしても復旧をいそいで、みかん生産を回復したいとの農家、関係者の強い意志と熱意を感じました。

私からは、復旧に向けた支援措置と全体の工程をできるだけ早くしめすとともに、復旧にむけて自民党、政府と一体となって取り組んでいくことをお伝えしました。



【写真1】県庁にて、意見交換会（愛媛県副知事）



【写真2】宇和島市にて、意見交換会（愛媛県みかん研究所、宇和島市吉田町）



【写真3】JA、みかん農家と意見交換会（JA松山市泊支所）



【写真4】急傾斜のみかん園で発生したガリ浸食（興居（ごご）島、松山市泊町）



【写真5】地元の方から説明をうける調査団（興居島）



【写真6】興居島を背景に。フェリーで渡りました。